

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語		算数	
	5年時	6年時	5年時	6年時
H28入学 現6年生	66.3		54.6	
	(1.05)		(1.05)	
		63		67
		(0.97)		(0.97)
R3 正答率の全国比		0.97		0.95

◎5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段()は県平均を1としての比較。

◎「令和3年正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

○ 現6年生

- ・5年時では国語・算数ともに県平均をやや上回っていたが、6年時では国語は県・全国比ともに-0.03、算数は県比-0.03、全国比-0.05と県・全国平均とほぼ同等であった。
- ・国語の内容別正答率では、「言葉」「話す・聞く」は正答率70%前後であったが、「書く」は57.4%、「読む」は50%と正答率が低かった。特に、「書く」は県比・全国比ともに-3.3%と下回っている。目的に応じて文章と資料を結び付け必要な情報を見つけたり、中心となる言葉や文を見つけ要約したりすることに指導の重点をおこななければならない。
- ・算数では、記述式の問題が正答率49.5%で、選択式76.2%、短答式69.4%と比較して落ち込んでいる。領域別では、「数と計算」(58.3%)「図形」(59.9%)について課題がある。特に、速さや面積の補充学習の必要がある。
- ・意識調査では、「学校の授業の予習や復習をしている。」児童の割合が74.1%と県・全国平均を上回っている。これは
全校で取り組んでいる「家庭学習ノート」の習慣が定着していることの表れである。また、「自分で決めたことをやり遂げようとしている。」児童も90.8%と目指す子ども像である「やり抜く力の育成」の効果が表れてきている。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- ・「めあて」から「まとめ」「振り返り」に至る一連の西部型学習過程を基本とし、どの教科においても実施する。児童自ら問題解決していく過程を大切にすると共に、自分の考えやその根拠を伝える力を付ける授業づくりを更に継続していく。
- ・ICT 機器の整備については、環境に恵まれている。1人1台タブレット端末、電子黒板など、今後も大いに活用した授業作りを進める。本校の校内研究のテーマである「1人1台タブレット端末を活用した授業改善」を進めることで協働的な学びや個別・最適化に向けた授業づくりを図っていく。
- ・算数科を中心に TT や少人数指導を継続し指導方法の改善を図っていく。それとともに個別の対応の機会を増やし児童の学習理解度を高める。

(2) (授業以外) 児童・児童の課題改善のための重点取組

- ・8年目となる全校での取り組み「家庭学習ノート」を継続して取り組む。よく書くことができている児童を称賛したり、手本となるノートを掲示したりする。全学年での取組が習慣となっており、学年が上がるにつれて内容が充実している。
- ・「学力向上タイム」を定期的実施し全職員で取り組む。県や国の学習状況調査の過去問に取り組ませ、解説をする。問題形式に慣れさせるとともに、じっくり問題に取り組む姿勢を育む。
- ・週3回の「花まるタイム」により、計算力や視写力をつけさせる。

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語		算数	
	5年時	6年時	5年時	6年時
H28入学 現6年生	54.8		46.9	
	(0.87)		(0.91)	
R3 正答率の全国比		57		70
		(0.88)		(1.01)
		0.88		1.00

◎ 5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎ 上段は平均正答率、下段()は県平均を1としての比較。

◎ 「令和3年正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

【国語】

対県比 0.88 と、県平均を大きく下回っている。

問題形式でみると、短答式の問題において県平均を大きく下回っている。(対県比 0.75)

設問ごとにみると、「漢字を文の中で正しく使う」において県平均を大きく下回っている。(積み重ね：対県比 0.60) (原因：対県比 0.72) また、「目的や意図に応じて、理由を明確にしなが、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する (対県比 0.82)」において県平均を大きく下回っている。

【算数】

対県比 1.01 と、県平均とほぼ同じである。

学習指導要領の領域でみると、「変化と関係」において県平均を大きく上回っている (対県比 1.05)

設問ごとにみると、「速さを求める除法の式と商の意味の理解 (対県比：1.18)」「棒グラフから数量を読み取ること (対県比：1.05)」「示された除法の結果について、日常生活の場面に即して判断すること (対県比：1.06)」において県平均を大きく上回っている。また、「複数の図形を組み合わせた図形の結果について、日常生活の場面に即して判断すること (対県比：1.06)」において県平均を大きく上回っている。一方、「複数の図形を組み合わせた図形の面積について、量の保存性や量の加法性を基に捉え比べること (対県比：0.95)」においては、県平均をやや下回っている。

無解答率においては、「帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述すること」で 7.4 ポイント、「小数を用いた倍についての説明を解釈し、ほかの数値の場合に適用して、基準量を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を記述すること」で 5.7 ポイント、県平均を上回っている。

【意識調査】

・「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」で「持っているが、約束はない」と回答した児童が 20.3% (県平均 17.3%) であった。

・「普段、1日当たり2時間以上、テレビやビデオ・DVDを見ている」と回答した児童は、47.2% (県平均

49.6%)であった。「1時間以上」と回答した児童は、74.8% (県平均 76.1%) であった。

・「学校の授業時間以外に、普段、1日当たり1時間以上勉強している」と回答した児童は、57% (県平均 59.1%) であった。「土日など学校が休みの日に、1日当たり2時間以上勉強している」と回答した児童は、27.7% (県平均 26.5%) であった。

・「自分には、よいところがあると思うか」について、肯定的な回答をした児童は 68.3% (県平均 76.4%) であった。

・「将来の夢や目標を持っているか」について、肯定的な回答をした児童は 89.4% (県平均 82.3%) であった。

・「新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、計画的に学習を続けることができたか」について、肯定的な回答をした児童は 52.9% (県平均 65.3%) であった。

◎正答率 () は県平均を1として比較

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

○学力向上対策評価シートの共通実践では、「児童が自分の考えを進んで書いたり話したりすることができるようにするための手立てを工夫する」と設定している。この共通実践のために、次のような重点的な取組を行う。

【国語】

言葉の特徴に関する事項については、主語・述語・修飾語などの単語や文節に区切ったカードを用いた指導を行うようにする。クロムブックのジャムボードを用いて、語句の並び替えなどを行うことで理解させる。また、漢字指導では宿題と関連した日常指導を続ける。書くことについては、自分の主張が明確に伝わるように書く題材を整理したり、並び替えたりする活動が有効である。この活動も、言語指導と同様に、題材の並び替えなどから文章の構成を学ばせるようにする。また、日常指導として、自分の考えを日記指導などで短い文章などから書けるようにする。

【算数】

図形領域では、数学的活動を取り入れる。公式を覚えて計算問題を解くという流れではなく、クロムブックを用いて自分の考えを書いて図形を動かすという活動を取り入れるようにする。グラフの読み取りについては、無解答率が高いこともあり、結果と考察の違いを分けて書く指導を行うようにする。結果から書くことで無解答を減らし、自信を持たせる。小数倍については、1についての理解をテープ図や線分図を用いて視覚的に理解させるようにする。

(2) (授業以外) 児童・児童の課題改善のための重点取組

・スマホ等の使い方について「約束はない」と答えた児童が県平均と比べると多いことが分かった。生活習慣の乱れにつながるため、保護者と連携しながら取り組んでいく必要がある。また、家庭学習に取り組む時間が県平均よりも少なかったことから、家庭での時間の使い方について、児童に指導していかなければならない。

・自分には、良いところがあると思っていない児童が県平均と比べて多いため、児童一人一人を認めるような声かけや良いところを伸ばす視点を教師としてさらに持っておきたい。一方で、将来の夢や目標を持っている児童は県平均と比べて多い。この結果から自分の将来や目標と関連付けて認められるようにしたい。

・休校期間中、計画的に学習続けることができなかった児童が県平均と比べて多かった。このことから、クロムブックを用いた授業づくりやオンライン授業づくりに研修を積み重ねながら取り組んでいきたい。

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語		算数	
	5年時	6年時	5年時	6年時
H28入学 現6年生	64.3 (1.02)		52.8 (1.02)	
			60 (0.92)	
R3 正答率の全国比		0.93		1.00

◎5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段()は県平均を1としての比較。

◎「令和3年正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

- ・5年時は、国語、算数ともに県平均を上回っており、11月までの児童の努力と、指導の成果が発揮されたと考える。
- ・6年時は、国語は県平均、全国平均を下回り、算数は県平均、全国平均と同等であった。国算ともに5年時と比較して下降しており、改善に向けた取組を強化する必要がある。
- ・国語では、「書くこと」はよくできており、「話すこと・聞くこと」「読むこと」が落ち込んでいる。
- ・算数は、どの領域もほぼ県平均、全国平均と同じで、特に良かったり落ち込んだりしている領域はない。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- ・算数科においては、5・6年は週5時間すべて、2・3・4年は週2～3時間をTTによる授業に充てている。いずれも加配教員がT1を担い、児童をよく知る担任が個別の対応に当たり、指導の充実を図っている。
- ・学力向上推進教員の配置を受けて、教職経験の浅い担任の学級や、個別支援を多数の児童が要する学級で指導に当たっている。時には国語や算数の示範授業も行い、教員の指導力向上に寄与している。
- ・校内全体研以外にも、初任研やグループ研にもなるべく多くの職員が参加し、指導方法を模索している。

(2) (授業以外) 児童・児童の課題改善のための重点取組

- ・市の取組である「花まるタイム」を火・木・金の朝に位置付け、級外も参加して指導に当たっている。15分間に音読、図形、視写、計算にテンポよく取り組み、年間80回の実施で学力向上の一端を担っている。
- ・3年以上は週2回の自主学習ノートの提出で主体的に学ぶ力の育成を図っている。ノートの点検や優秀なノートの掲示等は級外職員とし、全職員あげての取組としている。
- ・「家庭学習の手引き」「学力向上便り」を配布し、保護者へ家庭学習の大切さを訴えている。

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語		算数	
	5年時	6年時	5年時	6年時
H28入学 現6年生	67.2		53.1	
	(1.07)		(1.03)	
			60	
		(0.92)	(0.90)	
R3 正答率の全国比		0.93		0.88

◎5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段()は県平均を1としての比較。

◎「令和3年正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

6年生4月の全国学力テストの結果では、国語も算数も、全国平均・県平均と比べて低い正答率であった。問題別に見ると、どちらの教科も全国や県よりも高い正答率の問題もたくさんあった。しかし、国語の文法の問題や、国語・算数の記述式の問題にいくつか極端に正答率が低いものが見られたことと、個人差が非常に大きかったために、平均正答率が下がった。意識調査に関しては、家庭での学習時間が若干少なかったが、自己肯定感、将来の夢、学習習慣、生活習慣など、県や全国と比較しても、同等か、よい結果が出ていた。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

全国や県と比較して低かったものについて、今後も継続して指導を行っていききたい。国語の文法の問題については、普段の学習の中で担任が意識して指導をしていくことや、宿題・練習問題のプリントなどを使って指導を行っていく。また、記述式の問題については、どの学習においても、問題の解き方を記述したり、自分の考えを文章で記述したりといった、文章を書いて答える練習も行っていく。個人差も大きいので、理解に時間がかかる児童への個別指導も、継続して力を入れていきたい。

(2) (授業以外) 児童・児童の課題改善のための重点取組

意識調査から、家庭での学習時間について、30分以上勉強しているという児童は、全国や県と比較しても大きく上回っていたが、1時間以上になると大きく下回ってしまう。宿題以外にも工夫して勉強をするなど、学習時間を少しずつ増やしていくよう指導を行う。

調査からは、児童はおおむね自分の夢や目標をもって学習に取り組んでいる様子がうかがえる。このような意識が今後も継続していくよう励ましながら指導を続けていきたい。

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語		算数	
	5年時	6年時	5年時	6年時
H28入学 現6年生	71.7		50.0	
	(1.14)		(0.97)	
R3 正答率の全国比		73		70
		(1.13)		(1.01)
		1.13		0.99

◎5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段()は県平均を1としての比較。

◎「令和3年正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

- ・国語、算数共に無回答率が0%だった。調査問題に対して前向きに頑張っていたことが伺える。
- ・記述問題（思考力・判断力・表現力等）が、国語では、全国平均より約13ポイント高かった。特に書くことの内容では、全国平均より20ポイント高かった。算数でも、全国平均より約5ポイント高かった。データの特徴をとらえて記述することができていた。
- ・知識・技能では、算数が全国平均よりも約5ポイント低かった。特にわり算や図形の面積などの基礎基本の問題に課題が見られた。
- ・意識調査からは、挑戦する意識、人の役に立ちたいという意識が高く、前向きに日々を過ごしていることが伺える。一方家庭学習において、計画を立てて取り組むことや家庭での学習意識は、全国平均より低かった。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- ・基礎知識の定着のため、単元のはじめにレディネステスト・調整を行い、系統性を意識した授業づくりを行う。
- ・平行読書や複数資料活用など、一つの教材のみの授業にならないように意識し、準備をする。
- ・具体的な場面をもとに、計算の意味をとらえさせたり、児童が出した解答に対し、意味を問いかけたりし、解答を出すまでの過程に目を向けさせる。

(2) （授業以外）児童・児童の課題改善のための重点取組

- ・家庭学習を充実させるため、自主学習を推奨する。全校で自主学習コンテストを行ったり、自主学習週間を設定したりし、家庭学習へ取り組む意識を高めていく。
- ・長期休業中も学習習慣を継続させるため、「〇休み頑張りカード」を配付し、学習時間の目安（低1時間、中1.5時間、高2時間）を示しチェックさせる。

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語		算数	
	5年時	6年時	5年時	6年時
H28入学 現6年生	65.5 (1.04)		49.3 (0.95)	
			62 (0.95)	
R3正答率の全国比		0.96		0.93

◎ 5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎ 上段は平均正答率、下段()は県平均を1としての比較。

◎ 「令和3年正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

【学習状況調査より】

(1) 国語

「知識及び技能」の正答率は県正答率と全国正答率を上回っていたが、「思考力・判断力・表現力等」では大きく下回っていた。特に、課題が見られたのは「話すこと・聞くこと」の内容で、県正答率より9.2ポイント、全国正答率より11.1ポイント低い結果であった。資料を用いる目的を理解し、資料を活用して自分の考えが伝わるように表現することに課題があった。一方、「言葉の特徴や使い方に関する事項」は県および全国正答率を上回る結果であったが、思考に関わる語句を文中で使うことや文中における主語と述語との関係を捉えることに課題が見られた。

(2) 算数

領域「データの活用」の正答率が県正答率より9.6ポイント、全国正答率より12.4ポイント低い結果であった。特に、「複数のデータを比較し、特徴をもった項目とその割合を読み取る」問題や「集団の特徴を捉えるために、どのようなデータを集めるべきか判断する」問題の正答率は低い結果であった。統計的な問題解決の方法を知り、その方法で考察していく力の育成が必要である。一方、領域「図形」「測定」の正答率は、県および全国の正答率と同等の傾向にあった。問題形式では、記述式解答の正答率が、県および全国の正答率を大きく下回っていた。

【意識調査より】

(1) 生活習慣や学習環境

- ◆ 「朝食を食べる」「同じくらいの時刻に寝る」等の基本的な生活習慣については、全児童が肯定的な回答をしている。
- ◆ 「自分にはよいところがあると思うか」の質問に対し、肯定的な回答をした児童は90.9%で、県76.4%と比較しても自己肯定意識が高いと言える。
- ◆ 91%の児童が「学校に行くのは楽しい」と回答し、81.8%の児童が「自分の思っていることを言葉で表すことができる」と回答している。今後も継続して、月1回の生活アンケート等を活用して児童の実態把握に努め、教育相談体制を充実させていく必要がある。
- ◆ 「携帯電話、スマホやコンピュータ等を使うときの約束を守っている」と肯定的に回答した児童は91%、それ以外の児童は「持っていない」と回答している。また、平日のゲーム等の使用時間について3時間

以上という回答が 18.2%、2 時間以上 3 時間未満が 36.4%、1 時間以上 2 時間未満が 63.6%であった。携帯電話等の使い方について家の人と約束したことを守っているという回答が 90.5%で、県の 69.6%を上回っており、約束を守りながらゲーム等を使用していると言えるが、家でのルール決めやルールの徹底について家庭への啓発を継続していく必要がある。

- ◆ 「家で計画を立てて勉強をしている」と回答した児童は 81.8%で、学校の授業時間以外に 1 日当たり 1 時間以上勉強をすると回答した児童のうち、平日は 81.8%、土日は 63.7%であった。
- ◆ 「授業時間以外に読書を 1 日当たり 30 分以上する」と回答した児童は 36.4%、「全くしない」と回答した児童は 36.4%であることから、読書の習慣に個人差が見られる。

(2) 学校の授業

- ◆ 授業中の ICT 活用については「週 1 回以上」と回答した児童は 81.8%で、県 37.6%や全国 40.1%を大きく上回っている。また、活用の内容についても、意見交換や調べ学習に週 1 回以上活用していると回答した児童が 63.6%で、県 26.5%や全国 39.0%を大きく上回っている。
- ◆ 「授業で自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、文章や話の組立て等を工夫して発表した」と肯定的に回答した児童は、県 59.1%に対して、本校は 81.8%であった。
- ◆ 校内研究（算数科）に関わる項目では、「算数の勉強が好き」と肯定的に回答した児童は 63.7%、「算数の授業の内容はよく分かる」の肯定的な回答は 90.9%だった。また、「算数の授業で、問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている」の肯定的な回答は 100%、「本調査問題で、記述式の問題でどのように回答したか」では「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と 81.8%の児童が回答している。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

① 主体的に学ぶ児童の育成

- ◆ 西部型授業の学習過程に沿って「つかむ、見通す、考える、学び合う、振り返る」過程を授業づくりの基本とする。特に、見通す過程で「思考の可視化」を意図した問題提示や発問の工夫を行い、考える過程で既習事項を使って自分の考えを表現し伝える力を育成する。
- ◆ 学習の見通しをもち粘り強く取り組み、その学習を振り返って次の学びにつなげる「主体的な学び」を目指し、指導内容の系統性を生かした授業展開の工夫や掲示物等の学習環境の充実を図る。

② ICT 活用による指導の充実

- ◆ 新型コロナウイルス感染状況に応じて実施するオンライン授業等にも対応できるように、ICT 環境を活用した学習指導の改善・充実を図るために、研修会の実施や活用方法の情報共有を行う。
- ◆ タブレット端末の活用による個に応じた指導の充実を図る。考える過程で、つまずきが予想される児童への支援として、ヒントカードや小集団での指導にタブレット端末を活用する。また、タブレット端末の活用については研修会を実施したり情報共有を図ったりする。

(2) (授業以外) 児童・児童の課題改善のための重点取組

① 学力向上対策研修会の実施

夏季休業中に、全国学力学習状況調査結果を踏まえた研修会を実施し、本校の課題の共有と改善のための具体策について協議した。

【国語】

条件作文に課題があり、事実（意見）と根拠の書き表し方が不十分であったことから、文章から必要な情報を適切に選択することや要約の仕方を指導する必要がある。また、主語・述語・修飾語を正し

く理解して文章を書くことについても指導が必要であり、自分の考えをノートに記述する「思考の可視化」だけでなく、家庭学習の質的改善を図ることが重要である。

【算数】

公式の理解と活用力に課題が見られたことから、基礎・基本の習得の徹底が継続して必要であり、家庭学習の充実を図るとともにタブレット端末を活用したドリル学習の推進を行う。また、自分の考えを明確にして表現することを目指し、「西っこノートパワーアップ作戦」の取組を実践する。

② 読書活動の充実

図書館担当者と連携して、図書館教育を充実させる。(図書館の掲示物、読書週間の工夫、図書集会、図書館だより、武雄市おすすめの本の貸出奨励等)

③ 家庭学習の充実

家庭学習の質的改善を目指して、宿題(作文)で条件を与えることや、自主学習ノートの取り組み方の確認を行う。また、自主学習ノート等の内容を紹介し、家庭学習の意欲付けを図る。

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語		算数	
	5年時	6年時	5年時	6年時
H28入学 現6年生	72.3 (1.14)		61.9 (1.19)	
			73 (1.12)	
R3 正答率の全国比		1.12		0.98

◎ 5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎ 上段は平均正答率、下段()は県平均を1としての比較。

◎ 「令和3年正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

国語・5年時と6年時の推移をみると、2年連続で全国、佐賀県平均正答率を共に上回っており、全体的に国語力は高い。

- ・ 2問を除く全ての問題で全国、佐賀県平均正答率を上回っている。
- ・ 目的や意図に応じて資料を使い、自分の言葉で表現する問題が全国、佐賀県平均を下回っている。
- ・ 文章の要約や、言語に関する事項は全国、佐賀県平均正答率を10%以上上回っている。

算数・5年時と比較して6年時では、県平均と同じであるが、全国平均を下回っている。

- ・ 基礎的な内容は概ねできているものの、問われていることを整理して考え、資料を読み取ることや、データを2次元の表に整理する問題で、全国、佐賀県平均正答率を下回っている。
- ・ 公式等は理解できている一方で、公式を使って発展的な問題の正答率は低い傾向にある。
- ・ 道のり・速さ・時間に関する問題の正答率が高い。

意識調査

- ・ 学習習慣・生活習慣・算数への意欲関心は全国平均に比べるとやや低いが、国語への意欲関心は高い。
- ・ 学習習慣の「自分で計画を立てて勉強していますか」という質問に対しては、「よくしている」と「ときどきしている」を合わせた結果が、全国、佐賀県平均よりも約20%下回っている。
- ・ 「自分にはよいところがある」に対して、「あてはまる」と答えた児童は60%で、全国、佐賀県平均よりもかなり高いが、「どちらかといえばあてはまる」を加えた数は全国、佐賀県平均よりも若干低い。
- ・ 自分のよいところや将来の夢があるかどうかを問う項目で、肯定的に回答している児童の割合は全国・県平均共に上回っており、自己有用感が高い。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

(1) 自分の考えをわかりやすく伝える力をつける。

- ・ 読み取りだけでなく、文章から自身がどう思ったか、感じたかなど考えたことを記述や発表する場面を作り、友だちと話し合うことで、考えを広げたり深めたりする経験を多く積ませる。

(2) 資料を読み取ったり、活用したりする力をつける。

- ・算数科だけでなく、多くの教科で資料やグラフを取り入れ、必要な情報を読み取る場を設定する。

(3) 思考・判断・表現力と語彙力を向上させる。

- ・国語科を中心に単元を貫く言語活動の充実を図るとともに、学校図書館の利用を取り入れた単元構成を工夫することで、読書活動を重視した授業を仕組む。
- ・キーワードを設けた授業の振り返りやテーマ日記など書く活動を継続して行う。

(2) (授業以外) 児童・児童の課題改善のための重点取組

家庭学習の充実に取り組む

- ・タブレットドリルを活用して、課題の見られる問題や、下学年の問題にも取り組ませ、復習させる。
- ・復習だけでなく予習的内容の宿題に取り組ませたり決まった時間いっぱい学習できるように自分の計画を立てて勉強ができるように学習計画表を活用させたりすることで、児童の学習意欲及び学習習慣の定着につなげる。
- ・「学力向上だより」を通して、現状を保護者に伝え、保護者の意見も聞きながら双方向の情報交換を行っていく。

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語		算数	
	5年時	6年時	5年時	6年時
H28入学 現6年生	66.4		57.5	
	(1.06)		(1.11)	
R3 正答率の全国比		65		67
		(1.00)		(0.97)
		1.00		0.95

◎5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段()は県平均を1としての比較。

◎「令和3年正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

- 国語科では、無回答率が低く、あきらめない傾向が示されたが、国語の学習自体を嫌う率が高く、言葉への関心が低いことが判明した。
- 算数科では、計算はできるが、立式したり、求め方を書き表したりする必要がある文章問題の正答率が低く、情報を処理することを苦手としていることが分かった。
- 英語を苦手としている児童が6割強だった。
- 自己肯定感が低く、自己主張する力が弱い。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- ・ 言語事項を大切にし、言葉への関心を持たせるため、自分専用の辞書を用意させ、日常的に活用させていく。
- ・ 他教科や日常生活の中で、算数科の力を活用する場面を設ける。
- ・ 自分の考えを発表する機会を多く設け、自己肯定感の高揚につなげる。

(2) (授業以外) 児童・児童の課題改善のための重点取組

- ・ 「読書タイム」を新しく設け、全校で集中して言葉に触れるようにする。
- ・ 既存の「パワーアップタイム」等を活用し、文章問題に取り組ませる。
- ・ 健康観察時の返事を英語で返したり、職員室への入退室時の挨拶を英語で行ったりする活動を取り入れる。

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語		算数	
	5年時	6年時	5年時	6年時
H28入学 現6年生	59.4		44.2	
	(0.94)		(0.85)	
R3 正答率の全国比		62		65
		(0.95)		(0.94)
		0.96		0.93

◎5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段()は県平均を1としての比較。

◎「令和3年正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

【学習状況調査】

1 国語科の結果について

6年生の全体の平均正答率は、全国と比べてやや低い結果であった。観点別に見ると、「思考・判断・表現」がほぼ全国と同じで、「知識・技能」が低い結果であった。「思考力・判断力・表現力」では、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」は全国よりも少し高い結果であった。このことは授業の中で自分の考えを「書く」活動を意識的に取り入れてきた成果と考えられる。しかし「読むこと」においては、やや低い結果となった。特に全国と差が大きかった問題は、「文章全体の構成を捉え、内容の中心を把握する」であり、説明文や意見文等の論理的な文章の読み取りの技能を高めていく必要がある。

2 算数科について

昨年の佐賀県12月調査との比較でみると、対県比0.85から0.94へと向上が見られる。しかしまだまだ全体の平均正答率は全国と比べて低い結果である。観点別に見ると、「知識・理解」「思考・判断・表現」ともに全国より低い結果となった。なかでも「思考・判断・表現」の方が、全国との差が大きい。内容別に見ると、「三角形の面積」では、全国よりも高い結果となっているが、「わり算の立式」や「速さ」の問題、「割合のグラフの読み取り」などが全国と比べて低い結果となっている。

【意識調査】

意識調査の結果では、「朝食を毎日食べている」「将来の夢や希望を持っている」「地域の行事に参加している」等が全国よりも高い傾向にあった。反面、全国よりも低い傾向にあったのは、「学校に行くのは楽しい」「国語の学習は好き」「算数の学習は好き」など、学習に関するものが多かった。また「自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができる」「自分と違う意見について考えるのは楽しい」なども低い傾向にあり、学習の楽しさやお互いの考えを伝えあう楽しさについて感じさせていく必要がある。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

1 西部型授業の充実を通して、主体的な学習態度を高めていくこと

- ・「めあて」や「まとめ」の提示、「ふりかえり」の設定など、全校で共通した学習過程を取り入れ、指導方法を改善する。
- ・「授業づくりのステップ1・2・3」を活用し、「めあて」「まとめ」「書く活動」「話し合う活動」「ふりかえり」の5つを意識した授業を継続して実践し、児童の学力向上に努める。
- ・国語科では、論理的な文章の読み取りのための基礎基本を明確にして、各学年で重点事項を意識した指導を行うことが必要である。
- ・算数科では、問題文を読んで、問題場面を具体的にイメージすることが不十分である。問題把握をしっかりさせるために、分かっていること、問われていることなどに、線やしるしを書き入れたり、図に表したりすることを全学年で取り入れる。授業の中で繰り返し指導し定着させる。

2 書く活動の充実と協働的な学習の充実

- ・西部型授業とも連携し、自分の考えをノートやワークシートに書く場を積極的に取り入れていく。書く際には、文章だけでなく絵や図、式など多様な表現方法に広げていく。
- ・書いたことを発表に生かし、グループや全体の場での練り合いを通して、それぞれの考えを高めていくことで伝え合う楽しさを育てていく。

(2) (授業以外) 児童・児童の課題改善のための重点取組

1 家庭学習の充実を図り、児童によりよい生活習慣や学習習慣を身につけさせる。

- ・各学年で家庭学習時間を設定し、生活チェックや学習時間やテレビ・ゲーム等の時間の記録を書いた「やまびこカード」の振り返りを通して、家庭学習の定着を図る。
- ・「学校だより」「八束穂」(学習部だより)を定期的に発行し、地域や保護者との連携を図る。
また、児童の家庭学習ノートを紹介し、保護者への啓発、家庭学習の充実を図る。

2 読書の充実

- ・家庭での読書を奨励し、読書も家庭学習の1つとして位置付ける。週末において、読書に取り組むよう声かけを行う。

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語		算数	
	5年時	6年時	5年時	6年時
H28入学 現6年生	65.9 (0.95)		44.0 (0.85)	
		62 (0.95)		64 (0.93)
R3 正答率の全国比		0.96		0.91

- ◎ 5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。
- ◎ 上段は平均正答率、下段()は県平均を1としての比較。
- ◎ 「令和3年正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

国語

- 言語…主語・述語の関係や修飾・被修飾の関係についての理解が不十分で、語彙が少ないなど、語彙力にも課題がある。
- 読むこと書くこと…目的を意識して中心となる語や文を見付けて要約したり、自分の考えが伝わるように書いたりすることに課題がある。

算数

- 図形…図形の定義や性質を利用して、面積を求めることに課題がある。
- 数と計算…数量の関係を捉えて正しく立式することや、計算結果を基に問題場面を振り返ることに課題がある。また、筋道を立てて思考することが苦手で、思考の必要な問題では無回答率が高い。

意識調査

- ゲームの時間と学習の時間との切り替えがうまくできない児童が多い。
- 「人の役に立ちたい」や「人を助けたい」など自己有用感を大切に思う児童が多い。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- 「授業づくり123」の自己評価のもと、今後も授業改善（主体的に授業に取り組ませること）に取り組んでいく。重点ポイントとしては2項目ある。
 - ・ 学習意欲やめあてを児童に意識させた授業づくり
 - ・ 自分の意見をもたせ交流して考えを深めていく授業づくり
- どの教科においても「知識・技能」の習熟を反復練習して図ることが必須で、その上で応用問題や発展問題に取り組ませる。書き込み指導を改めて行い、自ら学ぶ習慣を身に付けさせる。
 - ・ 国語…言語分野を鍛えることのできる教材を計画的に活用する。作文指導では目的や条件を明確にして文章を書く時間を設ける。
 - ・ 算数…何を問われているかを把握させ、図・式・言葉を利用して順序立てて思考させる。また、思考する際には具体物を利用して数理処理を行わせたり量感をもたせたりする。

(2) (授業以外) 児童・児童の課題改善のための重点取組

- 読書内容の充実を図るために、図書委員会の活動をさらに活発化させ読書推進の活動を行う。(図書館だよりの発行、図書館祭り開催など)
- 国語の授業で学習した作者の本を紹介し、様々な読み物に触れる機会をつくる。
- 家庭学習では、「家庭学習のてびき」をもとに、学年に合った時間や内容を随時振り返って取り組ませる。
- 生活習慣について家庭と連携し、生活習慣の見直しを図る。
- ゲームやSNS等、インターネットにつながる機器の利用方法については、お便りや学習の機会を作り、児童だけでなく保護者の理解啓発を図る。
- 学級活動(朝の会や帰りの会を含む)や児童会活動での児童の自己肯定感を育む活動を取り入れる。「今日のきらり」や「ありがとうを伝えタイム」など

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語		算数	
	5年時	6年時	5年時	6年時
H28入学 現6年生	60.3		47.7	
	(0.96)		(0.92)	
			61	
		(0.94)	(0.93)	
R3 正答率の全国比		0.94		0.91

◎5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段()は県平均を1としての比較。

◎「令和3年正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

○国語・算数ともに県または全国平均を下回っている。

【国語について】

- ・目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える問題では、県平均を5ポイント以上上回っている。総合的な学習の時間等に、学んだことを伝える学習を行ってきたことと、問題の状況が似ていて、内容をイメージしやすかったことも結果につながっていると考えられる。
- ・主語、述語の関係や、修飾、被修飾の関係をつかむ問題でも、県平均を5ポイント程度上回る結果となっている。言葉についての基本的事項を授業の中で丁寧に確認してきた結果である。
- ・「読む」ことに関しての正答率が低く、県・全国平均との開きも大きい。文章や与えられた資料の概要をつかみながら、解答に必要な情報を選び出す力が不十分である。また、選び出す際に、問われている事柄を十分に理解した上で文章や資料を見返すという作業が苦手である。

【算数について】

- ・「数と計算」の領域については県平均を上回っている問題もあり、基礎的な事項は身に付いている。
- ・直角三角形の面積を求める問題に落ち込みが見られた。公式を忘れていたとも考えられるが、情報過多の場合に必要な情報を選び出す力が不十分である。
- ・国語同様、与えられた問題の中から、問われた内容と合致するような情報を選び出すことができていない。

○基礎的な部分については正答率が高いものもある。ただし、身に付けた理解が曖昧になっている部分もあるので、定期的に復習をしていくことが必要だと考える。また、自分の考えを“書く(表現する)”ための“読み(情報収集)”ができていない。この傾向はすべての教科において言えることである。世の中にあふれている情報の内容を確認・精査し、自分の考えを構築・発信していく力は、これからの子どもたちにとっては必要不可欠なものである。そのことを意識し、指導にあたっていく。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- 1 自己の考えを形成するための授業実践
 - ・今年度の校内研究のテーマである『自分の考えを形成し,主体的に伝え合う』部分に焦点を当てて取り組んでいく。具体的には、「①思考ツールを用いた思考力・表現力の育成」、「②ICT 機器の効果的な活用方法についての研究」の2点を中心に据える。
- 2 基礎基本の定着と活用力を育成する授業の実践
 - ・「授業づくりのステップアップ1・2・3 vol.1&2」を基本とした授業づくりに努める。その時間の「めあて」を達成するまでの道筋がはっきりし、学んだことを「まとめる」という一連の流れをしっかりと作る。
 - ・必要な条件や具体的な書き方などを示した上で、「書く活動」に取り組ませる。その際に、思考ツールの活用も意識的に行う。
- 3 主体的な学びを促す環境の整備
 - ・デジタル教科書やプレゼンテーションソフト・動画などを使い、問題の具体的な場面を想起させたり、実際には確認しにくいもの(理科など)を電子黒板を使って確認させたりすることで、学習への興味・関心を高めるとともに、確かな理解へと導く。
 - ・掲示物の場所に配慮し、学習に集中できるような学習環境を整える。また、既習事項や児童が身に付けなければならない学習用語などを教室に掲示することで、大切な語句を確認するとともに、それを参考にしながら発言する意識をもたせる。

(2) (授業以外) 児童・児童の課題改善のための重点取組

- ・朝の時間「花まるタイム」で、思考力を高めるための問題や思考ツールを効果的に用いる技能を身に付けさせる活動を取り入れていく。活動内容の一部を職員が考えることにし、目的意識をよりはっきりさせることで効果的な取り組みにしていく。
- ・家庭学習の習慣化、また、主体的に学ぶ力を身に付けさせるために、自主学習に取り組ませる。スマレクなど、予習的内容を取り入れることで、授業内容をさらに深く理解できるようにする。
- ・読書習慣を身に付けさせるため、クラスでの声掛けだけでなく、児童会の活動の一部として子どもたちの主体的な活動へと広げていく。